

令和6年度 第1回江別市消防委員会

日 時：令和6年8月21日（水）
14時00分～

場 所：消防本部3階多目的ホール

次 第

1. 開 会

2. 委員長挨拶

3. 副委員長の互選

4. 報 告 事 項

（1）第2回市議会定例会案件（消防関連）について

ア 財産の取得について

資料1

（2）民間企業との救急需要対策に関する実証実験の結果について

資料2

（3）予備救急自動車（5台目）の保有について

資料3

（4）火災予防広報への取組みについて

資料4

（5）今後の消防本部（署）・消防団の主な行事予定について

資料5

5. そ の 他

（情報提供）北海道消防学校 新校舎の概要（令和6年7月完成）

6. 閉 会

財産の取得について
(令和 6 年第 2 回定例会議案第 53 号)

1 種類及び数量

水槽付消防ポンプ自動車 1 台

2 主な仕様

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| (1) 年式 | 令和 6 年式 |
| (2) 車両 | キャブオーバー型 |
| (3) エンジン | ディーゼルエンジン |
| (4) 駆動・変速方式 | 4 輪駆動・マニュアルミッション |
| (5) 車両寸法 | |
| ア 全長 | 7, 6 0 0 mm以下 |
| イ 全幅 | 2, 4 0 0 mm以下 |
| ウ 全高 | 3, 2 0 0 mm以下 |
| (6) 乗車定員 | 6 名以上 |
| (7) ポンプ規格 | A-2 級以上 (2. 0 m ³ /min) |

3 主な特徴

- (1) 消火薬剤の混合が可能な消防ポンプを搭載
- (2) 衝突回避支援や誤発進抑制機能など安全装置を搭載

4 配置先

消防署大麻出張所

5 納期

令和 7 年 3 月頃

6 車両イメージ



財産の取得について
(令和6年第2回定例会議案第54号)

1 種類及び数量

消防ポンプ自動車 1台

2 主な仕様

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| (1) 年式 | 令和6年式 |
| (2) 車両 | キャブオーバー型 |
| (3) エンジン | ディーゼルエンジン |
| (4) 駆動・変速方式 | 4輪駆動・オートマチックミッション |
| (5) 車両寸法 | |
| ア 全長 | 6,000mm以下 |
| イ 全幅 | 1,900mm以下 |
| ウ 全高 | 2,300mm以下 |
| (6) 乗車定員 | 6名以上 |
| (7) ポンプ規格 | A-2級以上(2.0m ³ /min) |

3 主な特徴

- (1) 機動性に優れた可搬式小型動力ポンプを積載
- (2) 衝突回避支援や誤発進抑制機能など安全装置を搭載

4 配置先

消防団中央分団

5 納期

令和7年3月頃

6 車両イメージ



財産の取得について
(令和6年第2回定例会議案第55号)

1 種類及び数量

救急自動車 1台

2 主な仕様

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 年式 | 令和6年式 |
| (2) エンジン | 無鉛ガソリンエンジン |
| (3) 駆動・変速方式 | 4輪駆動・オートマチックミッション |
| (4) 車両寸法 | |
| ア 全長 | 6,000mm以下 |
| イ 全幅 | 2,100mm以下 |
| ウ 全高 | 2,495mm以下 |
| (5) 乗車定員 | 7名以上 |

3 主な特徴

- (1) 安全性の高い電動ストレッチャーを導入
- (2) 早期救命処置を可能にする高度救命処置用資器材を積載
- (3) 衝突回避支援や誤発進抑制機能など安全装置を搭載

4 配置先

消防署

5 納期

令和7年3月頃

6 車両イメージ



民間企業との救急需要対策に関する実証実験の結果について

1 概要

救急業務の課題（救急活動時間の延長）の解決に向けて、さっぽろ連携中枢都市圏の Local Innovation Challenge HOKKAIDO において、スタートアップ企業（株式会社 Smart119）と協働で試験事業を実施。

2 実証実験内容

(1) 救急需要予測及び分析

(2) 救急医療支援システムを活用した受入要請及び病院引継の効率化

- ・休日、夜間の内科系二次救急医療輪番制に参加している江別市内3医療機関（江別市立病院、溪和会江別病院、江別谷藤病院）にタブレット等を設置。
- ・救急隊は救急医療支援システムに観察結果等を入力し医療機関へ送信する。
- ・各医療機関は、救急隊からの情報で受入可否を決定しタブレット上で回答する。

3 実証実験期間

令和5年8月～令和6年3月末

4 実証実験結果（別紙参照）

(1) 救急需要予測

2040年頃をピークに緩やかに減少傾向へ向かうが、その後も高い水準を維持する予測。

(2) 医療機関選定時間の短縮

令和4年の内科系医療機関選定時間は13.6分であったが、救急医療支援システム導入後は7.8分に短縮した。

(3) 傷病者情報の共有

救急隊が行った観察結果や心電図や発生状況等の画像を医療機関へ送信することで共有できた。

5 今後の予定

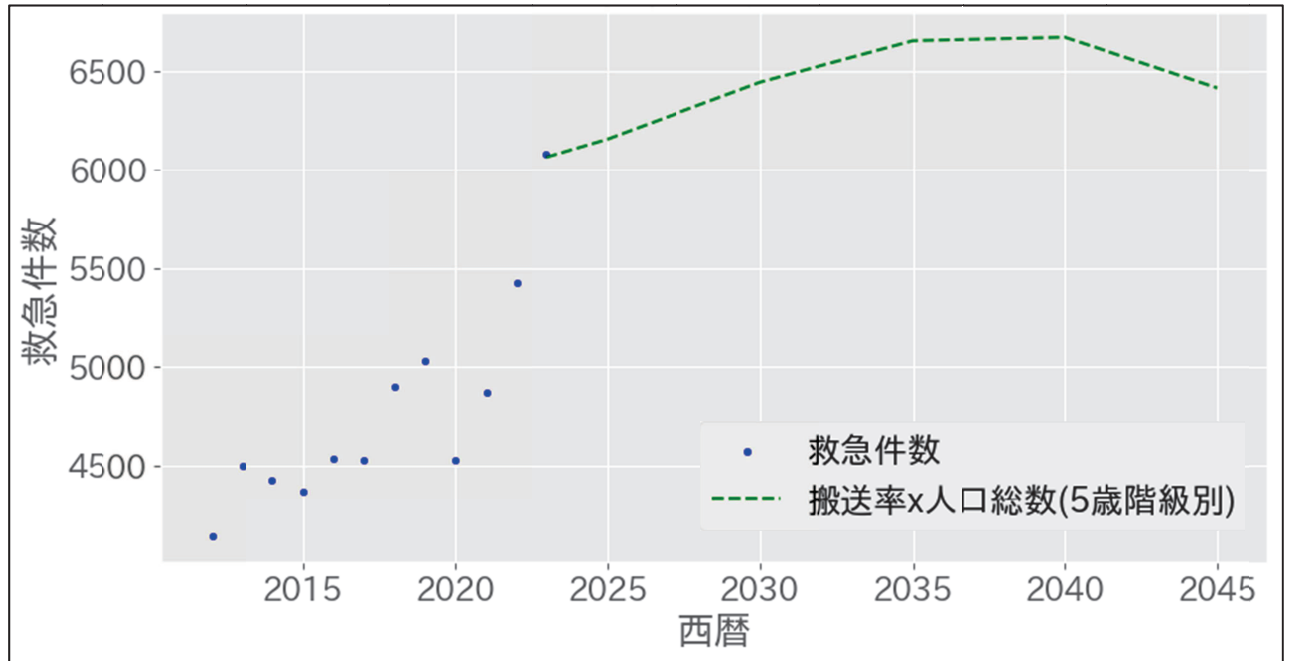
令和6年10月 本格運用開始

以上

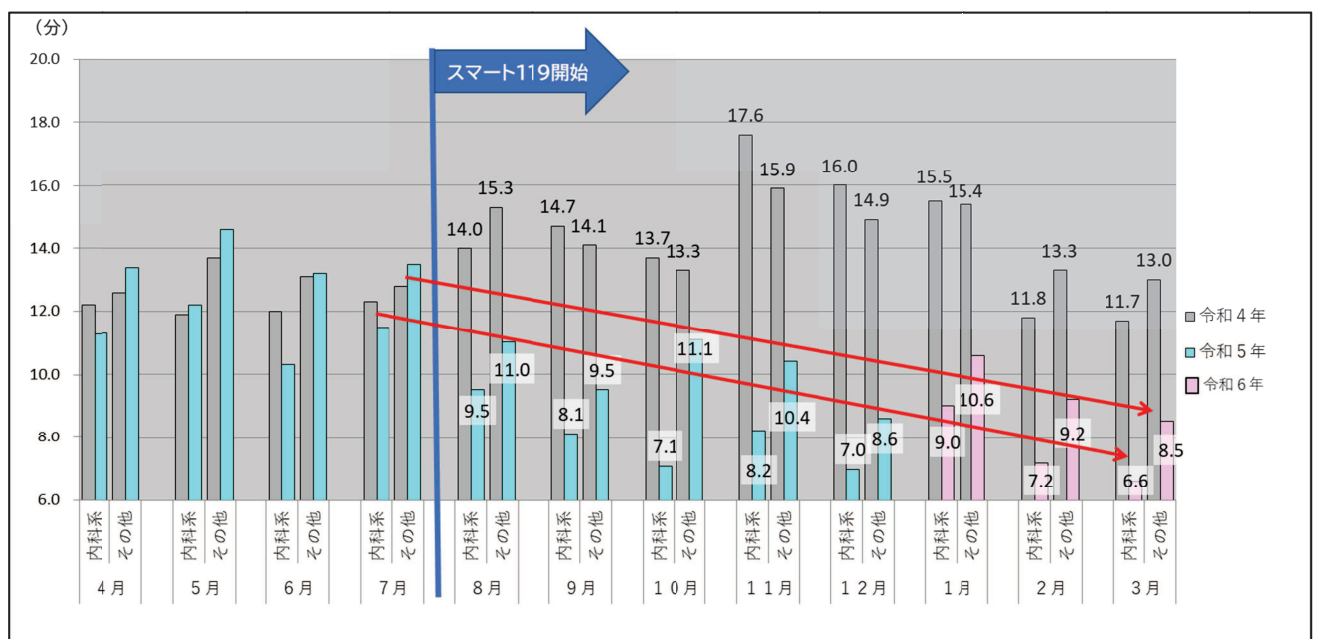
資料 2-1

(消防本部警防課救急需要対策担当)

1 救急需要予測グラフ



2 平均医療機関選定時間



予備救急自動車（5 台目）の保有について

1 趣旨

近年の救急需要の増加に対応するため、「迅速かつ安定した救急出動」を確保することを目的として、現行の救急自動車 4 台に加え、バックアップとして救急自動車を 5 台目として保有するものです。

2 背景

当市消防本部では、令和 5 年 10 月から特定の期間において、救急需要の高い日中に特設救急隊を編成し、4 台の救急自動車を同時に運用しております。しかし、救急需要の増加に伴い、4 台目の出動件数が増加しており、1 台も救急自動車を欠かすことができない状況にあります。

3 概要

(1) 運用

ア 資器材は特定のものを除いて常に積載するのではなく、必要に応じて載せ替えて運用します。

イ 5 台同時運用は行いません。

(2) 常置場所

消防署大麻出張所（車庫内）

(3) 今後の更新方法

これまで、救急自動車の更新が行われた際には売却していましたが、今後は売却せずに予備救急自動車として保有し、運用を続けます。その際、運用中の予備救急自動車を売却する予定です。

4 調整状況及び今後のスケジュール

令和 5 年	4 月	市財政課と協議開始
	12 月	予算要求にて予備救急自動車保有の意向伝達
令和 6 年	1 月	理事者へ説明し、承諾を得る
	4 月	消防団長へ説明（今後、大麻分団長へ説明予定）
	5 月 9 日	新救急自動車購入に係る入札（落札済み）
令和 7 年	3 月	納車予定
		新救急自動車運用開始と同時に予備救急自動車運用開始

〈参考 次期予備救急自動車の概要〉

購入年 平成 25 年購入（11 年経過）
 メーカー等 トヨタ（オートマチック式・ガソリン）
 走行距離 278,026 km（令和 6 年 2 月末現在）



以上

火災予防広報への取組みについて

江別市消防 10 か年アクションプラン 2033 に基づき、市民に対して防火意識の普及促進を図り、地域の火災予防を推進するための広報を実施します。特に設置義務化から 10 年以上が経過した住宅用火災警報器の適正な維持管理について、重点的に啓発活動を展開いたします。

1 出前講座の実施

出前講座のメニューである「火災予防」及び「住宅用火災警報器」について、自治会や高齢者クラブを主な対象に積極的に実施。

令和6年度 4件(令和6年7月末現在)

2 火災予防広報の充実

(1) 広報動画を作成

住宅用火災警報器の設置、維持管理、設置支援制度の動画を作成し、ホームページ等で公開。

(2) SNS(ソーシャルネットワーキングシステム)を活用した広報

令和6年5月から江別市消防署のInstagramが開始されたことに伴い火災予防に係る動画を公開。

3 消防フェスティバルの開催

(1) 日 時 令和6年9月1日(日)13時から15時まで

(2) 場 所 イオン江別店東側屋外駐車場(江別市幸町35番地)

(3) 内 容 防火クラブ員による防火宣言及び消防車両綱引き、救助隊員によるロープ降下、梯子車搭乗体験、放水・初期消火体験、煙体験、消防車両及び警察車両展示、住宅用火災警報器相談及び消防団PR並びに防火クラブ員及び消防団正副団長による防火啓発物品の配布等。

4 住宅防火アドバイザー研修会の開催

(1) 目 的 住宅防火の担い手を養成し、地域における火災予防を推進する。

(2) 日 時 秋の火災予防運動期間中(10月15日から10月31日)で調整中。

(3) 場 所 大麻地区(詳細調整中)

(4) 対 象 市民(自治会役員、ケアマネージャー、ホームヘルパー、大学生等)

(5) 内 容 防火講話、住宅用火災警報器のデモンストレーション、天ぷら油火災及び電気火災の再現等を予定。

5 参考：本年の火災発生状況（令和6年7月末現在）

- (1) 火災件数 22 件（前年同期 13件）うち住宅火災：7件（前年同期 3 件）
- (2) 死 者 2 人（前年同期 0人）
- (3) 負 傷 者 5 人（前年同期 1人）うち住宅火災：5 人（前年同期 0人）

以 上

今後の消防本部（署）・消防団の主な行事予定表

※印は消防委員会委員長にご案内する行事

月	日 程	行 事 名 称 等		開催地 (場所)
		市内行事	市外行事	
9	1日（日）	2024消防フェスティバル		イオン江別店
	22日（日）	ふれあい大麻		大麻出張所
10	1日（火）	甲種防火管理再講習		消防本部
	4日（金）	※消防関係物故者慰霊祭		消防本部
	中旬から下旬	住宅防火アドバイザー研修会		市内住区会館等
	15日（火）～ 31日（木）	秋の全道火災予防運動		
11				
12	2日（月）	消防団歳末特別警戒出陣式		消防本部
	5日（木）～ 6日（金）	甲種防火管理新規講習		市民会館
	20日（金）～ 31日（火）	歳末特別火災予防運動		
1	7日（火）	※令和7年江別市消防出初め式		市民会館
2	中旬から下旬	第2回消防委員会		消防本部
3	7日（金）	消防記念日		

その他の事業

- 自主防災組織の育成指導 ○自治会・事業所等への防火指導
 ○救命講習定期講習（毎月19日開催） ○小中学校での消防教室開催

北海道消防学校 新校舎の概要



令和6年7月
北海道消防学校

消防学校の歴史

<概要>

消防組織法に基づき都道府県が設置する消防職員・消防団員の教育訓練を行う施設で、毎年初任課程や専門課程を実施し、年間約1,000人が受講。

<歴史>

S23年10月 札幌市中央区(北海道消防会館の一部を仮校舎)に開校

S28年 8月 札幌市東区に新築移転

S40年12月 入校生の増加により、現在地(江別市)に新築移転

～ 現在 寮や教育訓練施設の整備を適宜実施

<校舎改築の検討経過>

【H29年11月】校舎の耐震化診断の結果「改築が妥当」と結論付け

【R元年 ① 7/24 ② 8/23 ③ 10/23】

「北海道消防学校教育訓練等のあり方検討会」を設置し施設整備等の方向性も検討

検討会での主な意見（施設整備抜粋）

～あり方検討会委員（11名）～
消防大学校教授、道内主要都市消防本部（6本部）、札幌市防災協会委員、北海道看護大学教授など

○訓練施設に関すること

- ・国が基準で示す消火訓練施設など、実践的な訓練施設を整備すべき
⇒震災対応訓練施設（R3.3 整備）、模擬消火訓練施設（R4.7 整備）

○学校校舎に関すること

- ・講義の効率化を図るため、大教室を整備すべき
- ・衛生管理上の観点から、防火衣乾燥室を整備すべき
- ・緊急消防援助隊の拠点としても機能するよう自家発電等を整備すべき
⇒校舎改修に反映

新校舎の特徴

校舎全体

現校舎



新校舎



特 徴

- 道有建築物で初めて NearlyZEB認証取得
- 教育訓練を快適に受講できる 冷暖房設備を導入
- 講義の効率化や学生の衛生管理上の観点から、最大150名収容可能な 大教室や、学生用の 防火衣乾燥室を新設
- 快適な自習と交流環境整備の観点から、図書室機能を兼ねたオープンスペース新設
- 道産木材を用いた 地域性を感じる内装

教室



図書室等



NearlyZEB 認証取得 【R5. 3. 17取得】

- ◇ エアコンやLED照明等効率的な設備の導入
- ◇ 断熱性能の向上、吹き抜けを利用した自然採光・自然換気の導入による省エネルギー化
- ◇ 太陽光発電設備（64kW）の屋上設置



一次エネルギー消費量を国が定める基準から79%削減する計画

$$\text{BEI (Building Energy Index)} = \frac{\text{設計一次エネルギー消費量}}{\text{基準一次エネルギー消費量}}$$

